

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

吉田つとむ

セミナー主催・インターンシップ主宰



楽しい社会体験プログラム



携帯QRコード
でブログ閲覧

廃プラスチックの資源回収

いよいよ、町田市の一部（横浜線以南のエリア）で容器包装プラスチック（＝いわゆる廃プラスチック）の分別収集を開始されます。10年以上前に計画された事業ですが、当時大きな反対運動があり、途中でとん挫したものです。今回は順調に進んでほしいと思います。

今年の4月実施で、燃えるゴミに比べて割安の収集料金になります。できるだけ「資源」としてリサイクルを図るための新規事業です。まずは、2月15日より機械の試運転期間中として、ピンク色の専用袋を無料配布して回収を始めます。*4月からは上記のように有料配布になります。



施設に回収された「廃プラ」は、コンベア上を移動する間に、手選別で仕分けされます。そこで働く人は、手だけを気ぜわしく動かす仕事であり、同じ立ち位置で働き続ける必要があります。本来、この部門こそ自動化が必要ですが、どの自治体を視察で見ても、人があわただしく手を動かしての作業となっていました。南地区の皆さんには、できるだけ水かけなどして「廃プラ」をきれいにして排出していただきたいと思います。

薄い地元企業の受注状況

町田市はごみ処理施設のリサイクル文化センターを更新し、新たな処理施設を建設する計画を進めています。これまでと変わる点は、運営を事業者に委託する部分を拡大すること、生ごみをメタンガス化することです。現在の施設の解体費と土地の造成費用を除いても、200億円を見込む工事となります。

今回、その説明が所属する建設常任委員会で行われました。議員が関心を持つことの一つに、工事に地元業者がどこまでかかわることができるかという点でした。発注の仕様書にその明記を求める意見もありました。私は、建築・土木・設備の各業種ごとに、それぞれ地元業者がかかわることができるかという観点で検討するべきだと主張しました。参考に、現に一般の建築工事である「成瀬センター」の受注でも地元業者でないことを挙げました。空論になるような論議でなく、実質を市内業者採用策を取るべきだと主張しました。

今回は結論を出す会議でなく、担当者が議会に対して経過を説明する「行政報告」と呼ばれる会議でした。今年の春がその目途になりますが、このままでは、町田市の業者がかかわる様子は見えてきませんでした。



このクラスの工事も他市業者が落札

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile: yoshidaben@docomo.ne.jp (モバイルのみ接続)

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

吉田つとむ

納税者主権の政治・リニア新幹線



町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2171

2期連続トップ当選

淡々と実施：電子投票選挙

公職選挙の方法と言うと、有権者が投票所に出向いて、投票用紙に候補者の氏名を書いて、投票箱に入れて、その投票箱を開票所に集合させ、それから大掛かりに開票作業を行い、複数の点検作業を行い、得票数を確認して当選者を決定するという方法です。期日前投票の場合は、投票場所が限定された場所で行われます。

ところで、1月17日、青森県六戸町（有権者人口 8,916 人）で電子投票機を用いた公職選挙がありました。本来は町長、町議会議員補欠選挙の双方がある予定でしたが、町長は現職の吉田豊さんが無投票で7選されました。結果、町議選のみが実施されました。



電子投票推進者の吉田豊町長と懇談

電子投票の特徴は、選びたい候補者名を手書きをせず、パネルの候補者をタッチする方法を用いるために、文字が読み取れない「疑問票」が一切発生せず、氏名の一部しか書いてないことでの按分票が生じず、投票者の意思が正確に反映することにあります。さらに、電子投票には候補者を選択しない白票に相当する方法もあり、実際にその投票もありました。*相模原市ではこの「疑問票」問題で異議申し立てが起き、裁判まで起きました。

電子投票選挙の意議

この電子投票方式の選挙は、当初予想より少なくなつて、日本国内では2自治体のみが実施しているに過ぎません。その大きな理由は、スタート時に複数の自治体で失敗があり、中には選挙の無効を訴えた裁判が起きて、現実には無効になる結果がありました。それは電子投票機器の大メーカーが失敗したものでした。TV番組（下町ロケット）ではありませんが、大企業の製品が失敗したことで、電子投票機器全体が欠陥、不良である考えがメディアや政治関係者に広がってしまいました。

現実には、当初の開発メーカーである電子投票普及協業組合（EVB）というメーカーの機器は、この六戸町でも12年前から、堅実にその選挙結果を示していました。

この電子投票選挙に反対の意見では、高齢者は苦手だと主張しますが、現実にはパネルの候補者名を指でタッチする方法にずっとなじんでいます。今、日本国内でATMが無いところはほとんどないことでも想像つくものですが、電子投票に声高に反対する意見に席卷されてしまいました。日本がそうした停滞をしている内に、先行した日本を置き去りにした開発が国外で進展する状況になっています。



電子投票機を操作し、模擬投票体験

★無所属で活動・市議会は保守連合 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ（市議会議員）